

増え続ける訪日外国人観光客！

時代（昭和・平成）を超えて、国境を超えて伝えていく 70年受け継がれるホテル椿山荘東京の「おもてなし」

ホテル椿山荘東京は、1878年（明治11年）山縣有朋公が「つばきやま」の地名に基づき、目白の高台にある邸宅を「椿山荘」と命名。1952年のガーデンレストランとしてのオープンや、1983年の新館のオープンなど、いくつもの季節をめぐって、2013年「ホテル椿山荘東京」として生まれ変わりました。今回は、スポーツの国際大会等も控え、ますます訪日外国人観光客が増加することが予想される中、約70年にわたり受け継がれてきたホテル椿山荘東京の「おもてなし」をご紹介します。

ホテル椿山荘東京が考える「おもてなし」とは

さながら森のような庭園の中に建つホテル椿山荘東京。

「世界をもてなす、日本がある。」をコンセプトに、3つのことを心にとめてお客様をおもてなししています。



1. 五感で感じるホテル椿山荘東京の7つの季節

当ホテルの庭園は、日本の春夏秋冬の四季だけでなく7つの顔（七季）を持ちます。それに合わせた旬の食材の変化や、しつらえ（館内の装飾など）など、季節の移ろいを五感で楽しんでいただけます。

2. 一人一人。あなただけの体験

お客様と向き合う、細部にまで心をくばる、お客様のパーソナルタイムを大切にするなど、唯一無二の体験の提供を心がけています。



3. 日本の伝統・文化を受け継ぎ、伝える

明治時代に造られた邸宅にはじまり、歴史を受け継いでいる当ホテルだからこそ、日本の伝統や文化を伝えていく必要があると考えています。古き良きものに新しい視点を加えていくことを常に心がけています。

ホテル一帯は、南北朝時代の頃より椿が自生する景勝地でした。山縣有朋公が庭園と邸宅を築いてから今日まで、豊かな自然と、高台から望む眺望が訪れる人々を魅了しています。この恵まれた環境の中で、自然の美しさ、日本のおもてなしの心、そして世界に誇るサービスをご体感いただける空間、時間を提供することは、私たちが受け継ぎ、守る文化のひとつであると捉えています。2020年に向けて、国内のみならず海外からのお客様にも日本的心が伝わるよう、さらなる進化を目指していきたいと思っています。

総支配人 和泉 浩



【ご紹介】ホテル椿山荘東京のおもてなしの取り組み

◆ 五感で感じるホテル椿山荘東京の7つの季節

日本の四季以上の「7つの顔（七季）」をもつ庭園

都心の目白にありながら、約50,000m²の敷地に森のような庭園をもつホテル椿山荘東京。四季を通して花が咲き、滝の音や、小鳥のさえずりが聴こえます。また、いくつもの史蹟が点在し、1周30分ほどのさんぽ道では、思いがけない野生の生きものにも遭遇することも。庭園内には3つのレストランもあり、庭園を眺めながらお食事も楽しめます。

【椿】1~3月



約100種1000本の椿が咲く季節。赤、白、ピンク、様々な色、形の椿を楽しむことができ、山縣有朋公の故郷山口県萩市から寄贈の椿も咲いています。

【新緑】4月中旬~5月中旬



若葉がキラキラと芽生える季節。庭園全体が初々しい緑色に包まれ爽快感を感じます。スタッフ間では、一番好きな季節との声もあるほどです。

【涼夏】7月下旬~9月中旬



木々が生い茂り、豊かな水が流れ、庭園のあちこちで涼を感じる季節。木陰が日差しをさえぎり、打ち水、小川を演出する雲海も涼を演出します。

【紅葉】11月下旬~12月上旬



モミジ、カエデ、ナラ、ハゼノキといった約100本の木々が赤や黄、オレンジに染まり、常緑樹の緑とあわせて庭園全体がカラフルに色づきます。

【桜】2月中旬~4月中旬



早咲きからソメイヨシノまで約20種100本の桜が咲く季節。夜桜はライトアップされ幻想的な雰囲気に。隣を流れる神田川の桜並木も同時に楽しめます。

【螢】5月中旬~6月



庭園内の小川に螢が舞う季節。1月末頃に小川に放流された幼虫が成虫へと成長し5月中旬に飛び始めます。都内でも有数の観賞スポットです。

【深緑】9月上旬~11月中旬



夏の日差しをたっぷり浴びて色濃くなった木々の緑。深山幽谷を思わせる日本らしい風情と史跡が織り成す秋の散策を思う存分楽しめます。

【ご紹介】ホテル椿山荘東京のおもてなしの取り組み

◆五感で感じるホテル椿山荘東京の7つの季節

七季の顔を繕う庭師たち

岡安 晃（1980年入社）

造園関係の学校に入学。恩師のすすめで椿山荘（現・ホテル椿山荘東京）入社後、庭師一筋。



大山 嘉臣（2015年入社）

祖父の影響で昔から庭の手入れなどをすることが好きで、今も仕事として続けている。



鶴田 萌木（2017年入社）

小さな頃から自然の中で遊ぶことが大好きで、好きなものに囲まれて仕事をしたいと道に。



庭師たちのお仕事例

■園路の整備（通年）

林泉回遊式庭園ということで、お客様が安全に庭園を回遊していただけるよう、手すりや園路にはみ出した木々の剪定を第一に心がけています。

■門松の製作（12月）

ホテル玄関に設置する門松は、毎年庭師が手作りしています。竹の大きさや飾る場所に合わせ、どの角度から見ても綺麗な形に見えるよう作っています。

■松の雪吊り（12月）

毎年の恒例作業で、三重塔前の松に雪吊りを設置します。自然の営みを感じられる庭園のなかで、この松と芝のエリアは手をかけて、美しく整えている自慢の一画です。

七季の食を彩る料理人（料亭「錦水」 調理長 加藤 圭一）

庭園内に建つ数奇屋造りの料亭「錦水」では、その季節のもっとも旬の食材を用い、庭園の四季を一皿一皿に表現して、会席料理をご用意しています。螢の季節には走りの鱧落としを、紅葉の季節にはずわい蟹を、京都の水で丁寧に引いた出汁とともに吸い物に仕立てます。かれいの煮付けや賀茂茄子の鳴炊きなど受け継いできた伝統料理とともに、絵巻物を読むような美しい日本料理でおもてなしをいたします。



◆一人一人。あなただけの体験

機微を見逃さない接客の凄腕つとめ人（ゲストサービス課 マネージャー 松本 耕）

ホテルには日々国籍の異なるお客様がお越しになり、ご来館の目的もさまざまです。入社後は、従業員全員が同じ研修を受けていて、その後もロールプレイングや管理者による覆面チェックも実施し、研鑽を積んでいます。良かった事例や、お客様からのお言葉の共有など、「お客様に深く聞いて、お客様を深く知る」という姿勢を大切にしています。経験と知識をホテルのスタッフと共有し、一人一人がお客様がお喜びになる「プラス1のご提案」ができるよう、これからも日々進化していきます。



【ご紹介】ホテル椿山荘東京のおもてなしの取り組み

◆日本の伝統・文化を受け継ぎ、伝える

庭園の象徴。国登録有形文化財の三重塔「圓通閣」

平安期の歌人として名高い参議・小野篁（おののかむら）ゆかりの寺院。広島県賀茂郡の篁山竹林寺に創建されたものを起源とする三重塔。室町時代前期部材が使われていることが判明していますが、平清盛が第一回目の修復を執り行ったという言い伝えもあり、創建の謎はいまだ明らかにされておりません。

1925年（大正14年）に藤田平太郎男爵が解体し、移築。2010年から2011年には平成の大改修が行われ、塔を未来に受け継ぐための耐震補強と修復を執り行い、初重にご本尊の聖観世音菩薩が奉安されました。



国籍を問わない日本の文化を伝えるアクティビティ

日本人のお客様も外国人のお客様も日本文化を知り体験するプランの提供しています。千利休の屋敷にあった「残月亭」を模して造られ、国の有形文化財に登録されている茶室「残月」での茶道体験や、庭園での散策を日本ならではの装い「着物」で楽しむことができる着付体験、ハリウッド映画の殺陣振付師がプロデュースし、日本に流れる精神性と形式美を感じていただけるよう、衣裳や剣などに触れながらレクチャーを受けるサムライ体験など、さまざまなアクティビティをお楽しみいただけます。



日本の文化や遊びを再発見するプランや設え

宇治茶、将棋、囲碁、和食のマナー、お座敷遊びなど日本に伝わる食材や遊び、文化を再発見、そして体験していただける企画やプランを各種ご用意しております。館内においても、日本の伝統工芸品の展示や随所に配置した生け花などで日本の美を感じていただける設えを行っています。



【本件に関するお問い合わせ先】

ホテル椿山荘東京PR事務局

担当：馬場、石原、重田（おもだ）

Tel: 03-6863-3377 Email: hotel-chinzanso-tokyo@scramble.jp